RESULTS the power to end poverty

飢餓と貧困をなくすための政策提言を行う国際市民グループ　通算73号

日本リザルツ　Letter Vol.13

action Advocacy to Control TB Internationally

2010年3月15日 第13号 発行：日本リザルツ お問い合わせ（担当：西尾）TEL：03-5280-2888 FAX:03-5280-2889 E-mail：info@results.jp

１．最新の活動；国際連帯税、ハイチ、ストップ結核フィリピン、バスーラ、世界結核デー 等

【　国際連帯税：リーディンググループ総会 チリ報告、これからの日本の動向　】

2010年1月28日･29日の両日、サンティアゴのチリ外務省ビル内会議室にて第7回開発のための革新的資金メカニズム･リーディンググループ総会が開催された。政府31ヶ国、10の国際機関･財団、12のNGOなど、総勢103名の参加があった。日本からは、外務省地球規模課題総括課の植野課長、在チリ大使館米田一等書記官、横浜市立大学上村准教授、オルタモンド田中事務局長、日本リザルツ狩野が参加した。日本代表は、次回総会の開催（2010年12月以降）を引き受けると発言し参加国から支持された。また、日本の国際連帯税推進協議会（寺島委員会）･国際連帯税を推進する市民の会（ACIST）などの進捗状況の発表は好意的に受け取られた。2009年10月に結成された革新的資金メカニズム･タクスフォースの専門家グループ代表として米国コロンビア大学グリフィス･ジョーンズ教授からは、「金融セクターへの関心が集中していて、金融専門家からも支持が相次いでいる今が実行のチャンスで、パイロットプロジェクト的な位置づけでまず通貨取引税（CTL）を、数年後にはさらに検討を加えて金融取引税（FTT）を実行するべきである。また、通貨取引税に関しては、10%程度を国内向けへの使い途、残りを開発に使うというのが現実的との現時点での考え方が披露された。この方向で専門家グループの議論がまとまるかは分らないが、注目すべき発言であった。日本を含む12カ国からなる革新的資金調達タスクフォースでは、4月末に専門家報告書が完成し、6月に閣僚級タスクフォース開催、また9月にはMDGsレビューサミットで国際連帯税のサイドイベントを開催するという運びであり、9月以降の日本政府による国際連帯税の実現への動きが注目される。

チリ･サンティアゴ総会の様子

【　ハイチ大地震支援：日本ハイチ友好議連、記者会見、ストップ結核推進議連　】

1月12日、ハイチを大地震が襲った。ハイチは世界で最も貧しいと言われる国の一つである。国民の半数が1日1ドル（90 円）以下で生活しており、その上に重なった今回の地震は、国の存続までも危惧させる深刻な状況に追い込んでいる。日本リザルツは早速支援キャンペーンを始めた。まず、現地で懸念される結核をはじめとする感染症の蔓延拡大について要望書をまとめ、二百数十名の関係者に要請活動を行うとともに、記者会見にも参加した。また、現地に緊急援助隊の一員として行かれた長崎大学の山本太郎教授らと情報交換をしながら、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟への協力要請やHPでの情報発信とともに、「継続的支援」の必要性から、毎月12日に街頭募金活動を実施し、結核対策に一緒に取り組むストップ結核パートナーシップ日本や（財）結核予防会の方々などと一緒に声をあげている。この様子はNHKテレビ、ラジオ、新聞等に取り上げられ注目を集めた。これとは別に日本リザルツ宛にいただいた義援金は、第一便を日本･ハイチ友好議員連盟へ、第二便を AMDA 社会開発機構へ届けさせていただいた。皆さまからのご厚意に心から感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援を是非ともお願いいたします。86年前の関東大震災発生後、"世界" は日本を見捨てることなく温かい支援を寄せてくれました。我々は今こそ恩返しをすべきではないでしょうか。詳しくは HP をご覧ください。http://www.results.jp/

ハイチ支援の街頭募金活動

【　ストップ結核パートナーシップ･フィリピン設立に向けて　】

2月14日～20日、フィリピンを訪問した。2008年7月24日、外務省、厚生労働省、JICA、（財）結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本で作成したアクションプランに基づき、フィリピンにおける結核対策支援の基礎づくりが目的で、関係者へアクションプランの説明を行い、今後お互いが協力してフィリピンの結核対策に取り組むことを確認することができた。また、現地で活動するNGOや治療にあたる医師、また元患者の方々とも意見交換をし、病院、DOTSクリニック、都

市部高蔓延地域（スモーキーマウンテン）の視察等も行った。

大変収穫のある一週間であったが、何より、今回の一番のお土産は「ストップ結核パートナーシップ・フィリピンを作りたい」とフィリピン側から大きな声が上がったことだ。世界の結核問題のホットスポットの一つが西太平洋地域にあることからも、ストップ結核パートナーシップ・フィリピン創設への期待は非常に大きなものであると確信するとともに、我々に課せられたミッションを着実に実行していくことの重要性を再認識した。我々の新しい挑戦が始まる。

【　市民キャビネットの設立 ／ 気候変動と貧困の同時解決 ／ 友愛公共フォーラム発足　】

1 月 29 日星陵会館にてＮＰＯ・ＮＧＯなどが結集して市民政策の実現を目指す「新しい公共をつくる市民キャビネット」設立協議会が開催された。同キャビネットの福嶋浩彦・共同代表（前我孫子市長）は基調講演で、「これまで民は官の下請けであった。この関係を抜本的に変えなければならない。新しい公共とは市民の公共だ。ＮＰＯが企業・政府と対等な関係で役割分担し、連携する主体的な市民活動を促進するＮＰＯに期待したい」と述べた。会場に集まった約400名が参加するなか、現政権とＮＰＯとの定期協議会の開催などを盛り込んだ「市民マニフェスト」の作成等を活動計画として採択した。日本リザルツも出席し、ハイチ大地震への支援・結核対策を求めるチラシや国際連帯税のリーフレットを参加者に配布した。

2 月 13 日、弘済会館で貧困や気候変動問題にかかわる NGO など約70名が参加して、ＮＧＯのネットワーク組織 CIVICUS の事務局長を務め、現在ＧＣＡＰ（Global Call to Action against Poverty）「貧困をなくすためのグローバル・コール」、ＧＣＣＡ（Global Campaign for Climate Action）の共同議長であるクミ・ナイドゥ氏の講演会が開かれた。ナイドゥ氏は「貧困と気候変動を同時に解決するのは今がチャンスである。」と強調した。「国境を越える貧困や気候変動、感染症などの問題を解決するために通貨取引税（トービン税）などの『国際連帯税』は必要か？」との日本リザルツからの質問に対しては、ナイドゥ氏は、「リザルツをＧＣＡＰ、ＧＣＣＡとしても、全面的に支持する。国際連帯税は、気候変動や貧困、感染症問題解決の資金源になるということで、これまでに増して世界中で『国際連帯税』への支持は増えてきている。」と答えた。

2 月 14 日、「友愛公共フォーラム」の設立を記念して「友愛と公共という新たな政治の地平～55 年体制を真に越えるために～」シンポジウムが東京大学医科学研究所1号館大講堂に約 100 名を集めて開催された。そのパネルディスカッションのなか劇作家で内閣官房参与も務めている平田オリザ氏は、「総理の所信表明演説のなかに人間を孤立させないという“社会的包摂（ほうせつ）”という価値がはじめて入れられた。これからの 100 年は、ある意味で近代国家をどうやって解体していくかということである。これをきちんとやれないと、環境、軍事、防災、感染症などの地球規模の問題が解決されない。国が有する力や機能を国際社会にどう譲り渡していくのかが問われている」と述べた。パネルディスカッション後、国際連帯税のリーフレットを手渡すと、好感触を得ることができた。

市民キャビネット設立協議会

クミ・ナイドゥ氏（右）と

パネルディスカッションの様子

【　映画「バスーラ」上映会 ／ 四ノ宮監督ら来訪　】

3 月 2 日、映画「バスーラ」の上映会をオフィスで開いた。絶対的な貧困、苛酷で劣悪な環境のなかにあっても逞しく生きる少女クリスティーナなどフィリピンのゴミ捨て場に生きる人々を映したドキュメンタリー記録映画である。「バスーラ」とはタガログ語でゴミの意味である。20 年以上にわたってフィリピンのスモーキーマウンテンなどのゴミ捨て場で生きる人々を撮り続けてきた映画監督の四ノ宮監督の最新作で、昨年日本で上映され大きな反響を呼んだ。この映画を見て「自分ができることをしたい」という日本の若者、学生などが中心になって現在のゴミ捨て場“アロマ”に「バスーラハウス」を 3 月末に完成する予定で頑張っている。

映画「バスーラ」の四ノ宮監督

3 月 3 日、四ノ宮監督が、フィリピンから帰国し、日本リザルツを訪れた。「映画『バスーラ』の主人公のクリスティーナも結核に罹った。毎年雨期になると現地では、結核などの感染症に罹り、多くの幼い命が失われている。現在建設中の『バスーラハウス』の

一室をクリニックにして、医師による月1回の定期健診の他、結核などの感染症に対する予防接種を行えるようにしたい。また、現地では貧しくお金がないため結核薬を買うことができず（無料のはずだが？）症状を悪化させ、死に至るケースも少なくない。」という。日本リザルツとして、こうした問題の解決に向けてさらなる協力を約束した。その後、四ノ宮監督と議員会館にストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の広中会長、浜田事務局長等を訪ねた。

【　第15回国際結核セミナー・世界結核デー記念フォーラム・全国結核対策推進会議 報告　】

3月4日に世界結核デーを記念しての標記セミナーが「結核対策の技術革新」というテーマで東京のヤクルトホールで開催された（主催：結核予防会結核研究所、参加者 400 名）。来賓挨拶として、財務省国際局総務課長仲浩史氏から結核分野では、世界基金への拠出・JICAの二国間援助・世界銀行信託基金での途上国人材支援といった総合的な支援を日本は行っているが、途上国の結核対策を含めた保健システム強化には、既存のＯＤＡだけでなく日本も参加している「革新的資金メカニズム」グループにより検討されている新たな通貨取引税・航空券税なども考える必要があるとのことであった。特別講演は、FIND（革新的診断技術などの研究・開発活動を促進する財団）の最高経営責任者のロッシーニョ氏の発表後、FINDとともに結核検査技術の開発を行っている栄研化学（株）が途上国の現場に近いところで使える遺伝子検出試薬キットの製造販売承認を2月26日に厚生労働省に申請したという発表を行った。

引き続き、「結核のない世界～結核対策は公衆衛生政策の原点～」という世界結核デー記念フォーラムが開催され、来賓挨拶でストップ結核パートナーシップ推進議員連盟事務局長の浜田昌良議員がフィリピン・マニラのバスーラ（ごみ山）でも結核が大きな問題となっているので、無関心と虚無感（あきらめ感）こそが関係者の大問題であると発言した。
特別講演では感染症の危機管理について日本政府新型インフルエンザ専門家諮問委員会委員長の尾身茂氏がインフルエンザの例をとりあげ、その後パネルディスカッションに進んだ。座長のストップ結核パートナーシップ日本事務局長田中慶司氏から米国リザルツ（ＲＥＦ）の調査部長ポール・ジェンセン氏の「米国におけるインフルエンザ対策と結核対策への教訓」というメッセージについて言及があり、参加者に日本語訳が配布された。閉会挨拶として結核予防会顧問の島尾忠男氏が、世界結核デーがコッホの結核菌の発見にちなんで1997年のWHO総会で決まったこと、今後も世界の結核対策を積極的に行うべきと締めくくった。また、翌日 5 日の全国結核対策推進会議では、結核医療と地域連携の未来像について様々な角度から考察が行われた。

２．ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）　～ 冨名腰　あん～

【　フィリピン結核患者との交流　】

2月15日、結核予防会／結核研究所フィリピンマニラ事務所で「日本・フィリピン結核患者ーストップ結核！ワークショップ」をストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）主催で行った。6 名のフィリピン結核患者、2 名の日本結核患者が参加。患者以外に結核予防会／結核研究所フィリピンマニラ事務所、（財）結核予防会、在フィリピン日本大使館、マニラ新聞社の関係者も参加した。これは、国際コミュニケーション基金（現：ＫＤＤＩ財団）事業の一環で、昨年 9 月東京の世界銀行事務所で行われたテレビ会議を受けた取り組みの第二弾である。日本とフィリピンの結核患者達が語り合い、悩みを分かち、共に助け合おうという試みで、両国の結核患者達が感じている様々なニーズや意見を聞くことができたのが成果である。

３．マイクロクレジット（ＭＣ）　～ザンビア・プロジェクト～

【　マイクロクレジット近況報告（10）　】

＜マイクロクレジット：ザンビアの結核・エイズ早期発見治療プロジェクト＞

2009年2月から標記プロジェクトが外務省の NGO 連携無償資金の支援を受けて結核予防会（現地法人）によって始まっている。事業の主目的は、ザンビア・ルサカ市のある地区の結核・エイズ対策を行うことであるが、住民主導で、まずコミュニティを回って対策を訴える結核ボランティアの育成が必要である。現在、ボランティア候補を対象に様々な研修が行われているが、同時に、結核ボランティアの生活も支援しなければならず、マイクロクレジット活動もプロジェクトの構成要素として行っている。現在 15 名が資金を借りて家庭菜園研修を受け菜園セットを購入して豆、にんじん、トマト等を育てている。今後は、対象を治癒した患者にも広げるとともに、他の事業へも拡大していくことを狙っている。このようなコミュニティレベルの疾病対策を生活改善とともに行う試みが成功し、拡大していくことを望む。

４．パートナー ／ インターンの皆さんからの声　　～松永　久美子さん～

【　フィリピン・バスーラハウスを訪ねて　】　　※バスーラとは、タガログ語で「ゴミ」を表す

2 月 14 日から 20 日の一週間、フィリピンの結核対策の視察に同行させて頂いた。マニラでは、2 回ほどスモーキーマウンテンに行く機会があった。処理されること無く不法投棄されたゴミは山となり、そのゴミにより自然発火し、いたる所で火事が起こり煙をあげている。その中で、人々が暮らしている。犯罪と貧困がはびこり、感染症は簡単に人々の命を奪っていく。そのスモーキーマウンテン（現ゴミ捨て場“アロマ”）で、四ノ宮監督(*)が立ち上げたバスーラ基金によりバスーラハウスが完成間近となっていた。私たちはバスーラの主人公になったクリスティーナさんと出来上がりかけたハウスの中で会った。四ノ宮監督と出会い人生が変わったという彼女は、今では子供を育てながらそこに住む人々をサポートしている。ハウスは日本人のボランティアと現地の人々が共に協力して、自分達の手で建設している。完成したら、保健のケアセンター（薬の配布や給食等）になる予定だそうだ。日本とフィリピンの人々、官と民、NGO 同士の連携、みんなで協力していけば必ず変化を起こしていけると確信した。日本リザルツも本格的にフィリピンの結核対策に協力していくことになり、濃密で有意義な一週間を過ごさせていただいたことに、とても感謝している。

(*)四ノ宮浩監督：フィリピンのゴミ捨て場に生きる人々を映したドキュメンタリー映画「バスーラ」の監督。

バスーラ公式 HP：http://www.basura-movie.com/top　　インターン　松永　久美子（↓右から2番目）

スモーキーマウンテンの子ども達

バスーラ　ハウス

クリスティーナさん(左から2番目)

５．お知らせ

【　第6回国際連帯税推進協議会　】 3 月 16 日　午前 10 時 00 分～12 時 00 分、参議院議員会館　第5会議室にて開催
【　結核予防会全国大会（鳥取）　】 3 月 18 日･19 日、とりぎん文化会館にて開催
【　ＳＴＢＪ常任理事会　】 3 月 25 日、結核予防会大会議室にて開催
【　ＡＣＳＭ（国際交流基金日米センター・地球規模課題研究事業）　】 4 月 2 日、ワシントンで報告会開催
【　結核ゆかりの地ツアー　】 4 月 7 日、結核ゆかりの地（清瀬等）を訪問
【　映画「バスーラ」上映会　】 4 月 8 日、上映①　13:30～16:00　上映②　17:30～20:00　憲政記念館　講堂にて開催
【　「国際連帯税を推進する市民の会（アシスト）」総会＆1周年記念シンポジウム　】 4 月 24 日、青山学院大学にて開催
【　「国際連帯税に関する国際専門家グループ最終報告書」発表　】 4 月発表予定
【　「開発のための国際金融取引に関するタスクフォース」閣僚級会合　】 5 月開催予定
【　Ｇ8　ムスコカ・サミット（カナダ）　】 5 月 25 日～26 日開催
【　Ｇ20　トロント・サミット（カナダ）　】 6 月 26 日～27 日開催

ご寄附のお願い：世界の貧困・保健問題の解決のため、政策提言活動を行っております。持続的な活動を続けるためにご支援をお願いいたします。郵便局の払い込み用紙に、口座番号００１７０－９－５８１４５９（加入者日本リザルツ）とご記入ください。便利な自動口座引落しについては TEL：03-5280-2888 までお問い合わせ下さい。

リザルツは、政治家やメディアと協力し、貧困に苦しむ人々の声を政策に反映させ、「貧困と飢餓のない世界」を創ろうと活動している国際市民グループ（NGO）です。日本の他、米国、カナダ、英国、フランス、豪州、ドイツ、メキシコなどで活動しています。日本リザルツは1989年の発足以来、ＯＤＡ（政府開発援助）政策において、貧困削減への費用対効果が高く、且つ、顔の見える援助政策について、政府に提言しています。リザルツのユニークな活動方法は、草の根の市民から、国務長官のヒラリー・クリントン氏、経済学者ジェフリー・サックス氏、元南アフリカ大統領ネルソン・マンデラ氏など世界の著名人達に至るまで、幅広い層の支持を得ています。マイクロクレジットでノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏は、日本リザルツの名誉顧問です。